

あなたへ

見えない命が花開くころ
暗い、暗い闇の中
じっと心の声に耳を澄ますと
かすかなささやきを感じる

小さなつぼみに先にのぞく
艶やかな桃色の襟足
ひと筋の汗が流れ落ち
ジャスミンの香りが、夜霧のように部屋を湿らす

一点の光はかなたへ遠ざかり
黒い瞳の中へと消えていく
彷徨う心を追いかけて、雨の木立を行けば
宝石のような露が
芽の先に輝いていた

押さえていた何かが、解き放たれて
あなたへと飛んでいくのを
じっと、静かに、見つめていた